



# 八幡小だより

北九州市立八幡小学校  
校長 田頭 麗宏



## 小中合同学校運営協議会を開催しました

昨年度から本校は、「北九州市型学校運営協議会」を設置し、学校と地域の方々などがより一層力を合わせて学校運営に取り組むよう深い協議（熟議）を行っています。本年度はその動きをさらに進めて、中央中学校・八幡小学校の合同で学校運営協議会を設置しました。市内で初めての取組です。これにより、小・中学校の9年間を通して家庭・地域から組織的・継続的に支援していただきながら「地域とともにある学校（中学校区）」を目指すこととなります。

### 令和2年度 学校評価結果

★家庭生活や八幡小地域と連携し合い、「豊かな人間性」とたくましい体をもち、自ら学び自ら考え、協力してよりよい生活を創り出していく子どもを育成する。	(1) 豊かな人間性	①子どもたちが、自分を大切にするとともに周りの人を大切にすることへの人権感覚を高めるような指導を重ねた。	3.5
		②特別支援学級への理解を深める指導をするとともに、学校生活のユニバーサルデザイン化(環境・意識)を進めた。	3.6
		③道徳科の指導で、話し合い活動などを通して子ども自身の内面に迫る学習展開を工夫した。(明日への伝言板も)	3.2
		④『あいさつ日本一』を目指し、「だ・い・じ」の指導に積極的に取り組んだ。	3.5
	(2) たくましい体	①体育科学習において十分な運動量を確保し、体力・運動能力の向上に努めた。	2.6
		②体力向上プログラムやジャンプアップ運動を学習に取り入れられるなど、授業改善に取り組んだ。	2.5
		③おもしろ体力測定やわくわくスポーツコーチ、体力アップ週間の取り組みに積極的に参加するよう促した。	3.6
		④元氣っ子タイムはもとより、日常の外遊びを推奨して、進んで運動に親しむ習慣付けを図った。	3.1
	(3) 自ら学び考える	①子どもたちが、自分の考えを他の人に説明したり、文にまとめる学習場面を設定した。	3.2
		②1単位時間ごとの「学習のめあて」をもたせ、「まとめ」「ふりかえり」を行った。(40分授業のため弾力的な実施をした)	3.4
		③一人一人の課題解決に向けて、教師はもとより子ども同士が励まし支援する学習の雰囲気醸成した。	3.1
		④学習時の姿勢、発表の仕方や聴き方、ノートのまとめ方など、学習規律が定着するように指導した。	3.4
	(4) 協力の創出	①いじめの未然防止・早期発見に向け、アンケートや面談を通して一人一人の状況を把握し、適切に対応した。	3.6
		②『八幡のあたりまえ』を中心に、子どもたちの規範意識を高める指導を徹底した。	3.4
		③コロナ感染対策を含め、安全・安心な学校生活づくりに向けて、「自分の命は自分で守る」意識を高める指導を行った。	3.6
		④学級活動や学校行事等において、子どもたちの自主的・自発的な活動の場を意図的・計画的に設定した。(実施可能なものにおいて)	3.1
	(5) 家庭や地域との連携	①家庭訪問や電話、連絡帳、学年だよりなどで、きめ細かく家庭連絡を行った。	2.8
		②家庭学習や基本的な生活習慣の定着に向けて、積極的に家庭との連携を図った。	3.1
		③地域団体(保育所や中学校を含む)との交流や地域人材の活用など、地域と協力しながら教育活動を行った。	2.4
		④地域の祭りや行事などへの積極的な参加を促した。	—

本来は年度当初に発足するはずでしたが、やっと2月に開催できました。両校の取組や運営方針、連携の状況について意見交換を行いました。

**学校運営協議会委員から**

- 本年度は地域の事業もできず、学校との連携が難しくなった。今後も学校に協力する体制を作りたい。
- 数年前に比べたら学校がきれいになった。環境のよさが子どもの落ち着きにつながっているように感じる。
- 無理しないことを心がけてPTA活動を行った。先生方の取組に感謝している。
- 子どもと関わる時には、先を見ながら「こんな姿に」というイメージをもっていきたい。



### 被災地に想いを寄せて



3月11日、東日本大震災から10年目の節目となる追悼式当日に、本校でも震災において犠牲となられた方々への哀悼の意を表しました。朝の全校暗唱の時間に、室生犀星の「ふるさと」という詩を暗唱するのに合わせて、突然ふるさとの姿が一変するほどの惨事に見舞われ被災された方々のお気持ちを考えながら黙祷を捧げました。